

- ・表紙「堀金冬期スポーツ大会」…………… p.1
- ・安曇野を知る1枚「龍神宮」…………… p.1
- ・公民館講座…………… p.2,3
- ・グループ紹介「コカリナの会」…………… p.2
- ・地区公民館だより「狐島地区」…………… p.4
- ・私は一生懸命「高橋 清美さん」…………… p.4



堀金 冬期スポーツ大会

堀金公民館は2月11日、堀金冬期スポーツ大会を堀金総合体育館で開催した。「ソフトバレー」「ボッチャ」「シャッフルボード」(写真)のニュースポーツ3競技で堀金地域9地区公民館による対抗試合を行い、150人程が参加した。

コロナ禍で3回中止した後の前回は「ボッチャ」の講習会を開き、今回、久しぶりの地区対抗競技大会開催となった。競技種目や参加資格を変更し、参加対象を小学4年生以上に広げるなど大人も子どもも参加しやすくなった。「ソフトバレー」は岩原地区、「ボッチャ」は下堀地区、「シャッフルボード」は倉田地区がそれぞれ優勝した。山田賢一堀金公民館長は「地域コミュニティーが希薄と言われる中、隣組の交流が大切」と話した。参加者が減少する中、社会環境の変化と生活文化の多様性に対応した公民館活動が展開されている。



安曇野を知る1枚 龍神宮

明科龍門淵公園と前川の間にひっそりと佇む祠がある。祠は「龍神宮」と言われ、龍神「くらおかみのみこと闇龍命」が祀られている。龍神は水の神であり、龍門淵の主とされる。龍門淵はかつて犀川の本流をさえぎる岩が突出し、河川の交通に大変な難所であったため安全を祈願したり、日照りの時は雨ごいをするなどの祭祀が行われていたようだ。

現在はカヌーなどのスポーツが行われ、春は桜、初夏はあやめの見物客で賑わう。

地区公民館だより 狐島地区公民館 (穂高)

北穂高3地区のひとつである狐島地区は、高瀬川と穂高川に囲まれたのどかな田園地帯。雪をいただく山並みを背景に飛ぶ白鳥を眺めながらの犬の散歩は、ここに暮らしてよかったと思わせてくれるひとときだ。そんな景観保全地区ゆえの悩みは、移住者を受け入れる宅地が少なく、公民館行事の参加者の高齢化が進んでいることだ。

そこで公民館では子ども会育成会との連携を強化することにした。保護者のLINEグループに案内を流すなど試行錯誤を重ねている。今年度はハロウィンにあわせて新規に企画したロゲイニングに老若男女75人が参加してくれた。衣装した子どもたちに目を細める年配者はもちろん、道なき道を突き進む大人たちに目を丸くする子どももいて、とても楽しい時間になった。役員の負担は大きかったが、企画運営にひと手間かけさえすれば地域の賑わいも取り戻せるという手応えを感じた。

新年度目前、ここでの引き継ぎが何より重要だと考えている。

【狐島地区公民館長 鈴木 寛】



私は一生懸命 高橋 清美 さん (堀金)

民謡を楽しみ、料理を愛する

堀金芸術文化協会会長(安曇野市芸術文化協会連絡協議会副会長)の高橋さんは、民謡歌唱演奏の「駒の会」代表を務め12年になる。「歌う楽しさ、発表する喜びがある」と仲間と練習に励んでいる。



堀金地域文化祭の芸能発表会では、芸術文化協会のリーダーとしての手腕を発揮し人心をまとめている。

元々は調理師で、松本広域調理師会・元会長(長野県調理師会・元副会長)と、その道の経歴は豊かである。

堀金の「食事処 美里」を経営していた。現在は

第一線を退き、公民館活動を中心に料理教室講師を受け持っている。

堀金公民館では、以前「男の料理教室」を指導し、引き続き現在は年5回開催の「食卓にもう一品」の講師を続けている。

料理教室では、受講生の信頼が厚く、それに応えるかのように多彩な料理メニューや食材の準備に余念がない。「料理には四季折々の文化や人々の心が宿る」と熱く語る。

地区の区長、公民館長、扇町末広会等の役員、安曇野市観光協会堀金支部長を歴任、安曇野市公民館運営審議会(副会長)の役職もこなし、こよなく地域への愛着に溢れている。



編集後記

◆元旦の午後、けたたましく鳴る携帯とともに感じる大きく長い揺れ。「まさか。また。なんで。やっぱり」と交錯する中で収まるのを待った。いつも思うことは、自分は何をすべきか、何ができるか。少しずつ思いを具体化していきたい。(M・M)

◆元旦に発生した能登地震で自然災害の恐ろしさを改めて感じた。被災地の早期の復興を願うばかりである。この機会に自分の防災・減災を具体的に考えたい。(H・N)



「コーヒー教室」
～自分好みの一杯を探して～

小雪が舞った1月24日、三郷公民館では5年目となるコーヒー教室が調理実習室で開催された。

講師は三澤コーヒー代表取締役の三澤優治さんが務め、15人が参加した。初めに今日使用する2種類の豆の違いや、ハンドドリッパーで入れる際の注意点の話があり、6つのグループに分かれた参加者は実際にコーヒーを入れて味わった。他のグループが入れたコーヒーも飲み比べると、「なんで?」「全然違う」「おいしい」などと驚きの声が聞かれ、講師から「同じ豆の種類、量で入れているので、違ったのはお湯の温度や入れ方

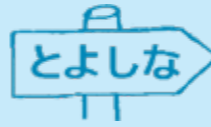


【公民館講座】

だけ。このあたりが面白いところですよ」と話があった。その後豆を変えてもう一度入れた後、用意されたチーズケーキと一緒に味わった。講師は豆の生産地を訪問した際の写真を映し、「消費者は生産者を、生産者は消費者を知り、お互いを理解しあうことが大切だと思っています」と話した。



最後の質問の時間では、ミルで挽く長さや豆の保存方法などの話が出され、香ばしい匂いに包まれた会場は大変な盛り上がりを見せた。



「安曇野市高校演劇合同発表会」

2月11日、豊科公民館ホールで「青春ドラマシアター2024」と題し、市内3高校演劇部による合同発表会が4年ぶりに開催された。

開演前のセレモニーでは、豊科高校の胡桃澤茜部長が「安曇野市を盛り上げる気持ちで頑張りたい。今日のためにこれまで頑張ってきた結果を皆さんに見てもらいたい。心の底から楽しみましょう」と挨拶をし、幕を開けた。



上級マナー講座「ラーメン」

南安曇農業高校は「なんでも屋の不思議田さん」、豊科高校は2グループに分かれて「上

級マナー講座『ラーメン』と「嘘屋」、穂高商業高校は「カフェで呪文を唱えたら」を披露した。



カフェで呪文を唱えたら

部員が少ない中でも演出から照明や音響まで全て生徒たちで行った。舞台では役者たちの息の合った掛け合いに見ている側も引き込まれていった。

高校生たちの、演劇に対する熱い思いの詰まった素晴らしい演技に感動と元氣をもらい楽しい時間となった。



地域物語「堀金のお宝発見講座」
～小説『安曇野』と『広辞苑』～

堀金公民館は「ふるさと堀金を楽しむ会」と共催で2月19日、「堀金のお宝発見講座」を公民館講堂で開催し、40人が参加した。講師は小説『安曇野』を読む会代表の伊藤正住さん



(堀金在住)で、「小説『安曇野』と『広辞苑』～1時間で登場人物を紹介すると～」と題して講演を行った。白井吉見の『安曇野』は

第1巻から第5巻117章、原稿用紙5,600枚を昭和39年から10年かけて執筆され、3,132人が登場していると語った。

明治・大正・昭和の歴史を背景に信州に結ばれた若者たち5人の出逢いと別れを軸として描かれた小説ではあるが、実名で登場する人物は広辞苑にも掲載される著名人も多く、日本近代史の上でも重要な人たちが描かれていると説明した。



穂高の宝
「穂高が生んだ彫刻家『小川大系』」

穂高公民館は11月22日に本講座を開催した。講師は市文化課の塩原理絵子さん。受講者は19人。

初めに公民館で講師から、小川大系の人物像、作品の特徴、帰郷後の活動などについて説明があった。

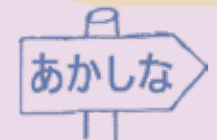
講義後、「天空ヲユク」などの公民館内の作品群、中庭の「水馬」、穂高東中前庭の「稔」、穂高駅前「登頂」、穂高神社の「神馬」「狛犬」、穂高商業前庭の「少女と小鳥」を巡って鑑賞した。受講者の中に「鱒投網」のモデルの子息や大系の作品をブロンズ化した



工房の人がいるなど、関心の高さがうかがえた。受講者からは「多くの作品に触れて感動した」「大系をもっと多くの人に知ってもらいたい」などの声が聞かれた。

【小川大系とは】

明治31年南安曇郡東穂高村生まれ。35歳の時に「長崎の平和祈念像」の彫刻家北村西望の弟子になり、翌年早くも帝国展覧会に入選した。その後も数々の展覧会で入選し中央で活躍したが、昭和20年疎開のために帰郷し、以後は地元で多くの作品を制作し活躍した。



「新春コンサート」
～箏と尺八 新春のしらべ～

明科公民館では1月26日に、毎年恒例となった箏と尺八の新春コンサートが開かれた。よく晴れた青空に凜と澄んだ空気が清々しいこの日に、初春にふさわしい雅な音色が響いた。講堂の50の客席が全て埋まるほどに盛況で、情趣あふれる和の調べに参加者全員が耳を澄ませた。奏者は尺八の原靖堂さん、箏の有賀雅栄さんと小澤雅美穂さんの3人で、毎年このコンサートで演奏している。お正月とい



えば誰もが一度は聞いたことのある「春の海」から始まり、箏の共演である「THE KOKIRIKO」、尺八の力強い音色が印象的な「虚空」など、古典的な曲からモダンにアレンジされた曲まで6曲が演奏された。アンコールで「ふるさと」が演奏され、参加者全員で歌ったが、箏と尺八の伴奏と合わせると、いつもと違った雰囲気であった。小澤さんは「昔はこの家にもある一般的な楽器だった。最近はずっかり馴染みがなくなりましたが、またこうした機会にぜひ多くの人に参加して親しんでほしい」と話した。

グループ紹介 コカリナの会「ぬくもり」(三郷) ～優しい木の音色響く～

「現在のグループの形では2010年から活動しています」と優しく語ったのは本会の代表を務める藤澤美紀さん。以前に一日市場で大きなユリノキを伐採することがあり、何か形にしておきたいとの思いを共有する人たちで、木の楽器「コカリナ」にして残し、前身の「ぬくもり」が発足して現在のグループに至っている。



取材日は8人の会員が、音出しから始まりコカリナの為に作られた「歩いてきた長い道」や「荒城の月」「茶色の小瓶」などスタンダードなものまで、木製楽器ならではの優しい音色を響かせて練習していた。

藤澤さんは「今までで一番の思い出はアルプス公園の植樹祭で吹いたこと。最近では、安曇野マラソンや三郷ふれあいコンサート、デイサービスへの訪問など声をかけられれば可能な限り演奏しに行っています。現在の目標は記念コンサートを開くことです」と語ってくれた。

本会は、主に三郷農村環境改善センターで第2・4金曜日が練習日。随時会員募集中。